

世界の恵まれない子供達に学ぶ機会を！ 学ぶ喜びを！

SCOLA

Vol 13

認定 NPO 法人 LS スコラ育英基金

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 1-25-15

Tel & Fax : 03-3428-8307

E-mail : scola_japan@yahoo.co.jp HP : <http://scola.web.fc2.com/index.html/>

郵便振替番号 : 00100-0-767496 特定非営利活動法人 LS スコラ育英基金

〈 奉仕と思いやり 〉

皆様にはお元気でおすごしでしょうか。新型コロナウイルスの5類移行もあって、用心しつつも、コロナ以前の生活に戻ったという方も大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。

令和5年度の通常総会も、5月13日に対面で開催し、全議案が出席社員の全員一致で承認されました。昨年度の活動・事業・会計報告並びに今年度の活動については、次頁以降をご覧ください。この1年間ご寄付その他有形無形のご支援をいただきました皆様方に対し、厚く御礼申し上げます。

今年度の事業計画策定に当たり、ラ・サール会の SECOLI 事務局からは、緊急度の高い案件として、軍事政権の弾圧によるミャンマー国内の避難民に対する食糧や医薬品の人道的支援と収容施設内の子供たちの文房具や学習用音響機器の支援に対する要請が、昨年度より支援対象地域を拡大する形でありました。昨年12月の国連調査では一昨年2月の軍事クーデター以降、新たに114万3千人の国内避難民が発生しており、その多くは少数民族で、西部チン州や東部カヤー州といったインドやタイとの国境をまたいだ様々な紛争地域に住んでいます。ミャンマーは仏教徒が人口の9割を占めるもの



の、これらの州ではキリスト教徒が4~8割を占めており、軍事クーデター後は、少数民族の民兵組織が民主化を求める抵抗運動を精神的に支持してきたことから、国軍との対立が激化、チン州やカヤー州の民間人地域に対する砲撃や空爆を始め、その中で、キリスト教や仏教の宗教施設は避難場所として利用されることが多いことから標的にされているということです。

ところで、ラ・サール会のブラザーたちは1860年にミャンマー（旧ビルマ）で活動を始め、学園同窓会の資料によれば、国内に9つのラ・サール校を開設し、若者たちにキリスト教精神に立った教育を提供していたところ、1965年に軍事政権によって、他の学校同様公有化され、それ以来、ブラザー達は、貧しい子供たちが学校に通うための寄宿舎を地方で運営したり、首都で若者たちのための英語やコンピューターの学習センターを開設し、恵まれない若者たちに学ぶ機会を提供してきました。

日本にラ・サール会のブラザーたちが最初に来たのが1932年、その後の90年間に、仙台に養護施設ラ・サール・ホーム（1948年、旧名：光ヶ丘天使園）、鹿児島（1950年）と函館（1960年）に高校が開設されました。聖ラ・サールの時代から、戦前戦後の大混乱期の日本と現下のミャンマーまで、世界中でブラザーたちが信仰と情熱によって若者たちに奉仕する活動に専念されたことに感謝しつつ、当基金は、今後とも「聖ラ・サールの精神」（「学びたくても学べない子供等を救おう」等）を受け継いで活動してまいります。

皆様方のご支援を是非ともよろしくお願い申し上げます。（理事長 宇野哲人）

<令和5年度通常総会の開催>

令和5年度の通常総会は、5月13日（土）11時から港区新橋にある航空会館でオンライン会議システムを併用して行われました。主な議事内容は以下の通りです。

1. 「令和4年度の事業報告及び収支決算」については、（海外からの恵まれない留学生に対する支援事業）の対象となる留学生についての質問と、広報誌発行の（勘定科目）についての質問がありましたが、留学生については様々な大学や高校からも参加していること、広報誌の勘定科目については税理士にも相談しながら行っているが不特定多数の新たな寄付者獲得のためにも使用しており特に問題は無いとの説明を行い承認されました。
2. 「令和5年度の事業計画及び収支予算」については、4年続けて受取寄付金を上回る支援事業費となっているが、寄付金をできるだけ支援金に回して、繰越金を減らしていく方が寄付者の理解が得られるのではと考えているとの説明を行い承認されました。

<令和5年度の事業計画>

1. 国内の支援活動

- （1）仙台ラ・サール・ホーム（児童養護施設）出身で大学などに在学中の学生4名に対する奨学金（上期24万円・下期24万円、各期6万円/人）を計上し、上期分については5月に既に支給済みです。
- （2）来年春、同ホームから大学などに進学する予定の2名に対する入学一時金（30万円/人）を計上し、入学手続きなど確認されたら来年2月ごろ支給予定です。
- （3）海外からの恵まれない留学生への支援事業並びに国際交流事業への資金支援は、令和4年度分は本年8月に延期となっており、本年度は来年2月に実施予定ですので2回分（各10万円）の20万円を計上しています。



2. 海外の支援活動

(1) 軍事政権によるミャンマー国内の避難民に対する支援（継続）

昨年度はカヤー州・チン州の避難民に対する食糧や医薬品の人道的支援と収容施設内の子供たちの文房具や学習用音響機器の支援を2回に分けて計1万ドル（1,372千円）を行いました。今年度はカヤー州・チン州・カレン州・ザガイン管区と対象地域を拡大した継続案件で2万ドル（2,720千円）を計上し、5月には既に送金しました。

(2) 海外支援プロジェクトのラ・サール会ローマ本部との調整

当初ラ・サール会本部からは、スリランカにある歴史的に疎外されてきたタミル人の生徒を収容している学校の寄宿舎の施設・備品を拡充するプロジェクト（2.5万ドル 325万円）の支援要請がありましたが、昨年度支援したウクライナ避難民やミャンマー避難民の継続支援を当NPOの意向として伝えました。ウクライナ難民のプロジェクトについては、現地ラ・サール会の資金調達活動は終了し、地元の受け入れ担当地区に引き継がれているとのことです。ミャンマー難民については、対象地域や民族も拡大し更に困難な状況が継続しているため、ラ・サール会本部からもミャンマー案件を優先支援してほしいと連絡があり、当理事会でも本年度はミャンマー案件の支援を行うこととしました。



3. 活動予算案

(1) 経常収益

皆様からの寄付金は、口座引落期限を迎えられる方が数名おられることから、予断を許しませんが、令和4年度並みの260万円を予定しました。

(2) 経常費用

上記内外の支援活動の事業費として399万円（送金手数料込み）、管理費として47万円の合計446万円を経常費用として予定しました。動画による活動内容のPR費用と事務局移転の調査費を新たに計上しております。

(3) 当期財産増減額及び次期繰越財産額

以上の結果、当期財産額は186万円減少し、次期繰越財産額は1,401万円を予定しております。

令和 4 年度事業収支報告（令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日）

活動計算書（要約）

（単位：千円）

科目	金額
I 経常収益	
受取寄付金	2,675
受取利息	0
経常収益合計	2,675
II 経常費用	
人件費	0
支援事業費	3,154
送金手数料	19
事業費計	3,173
人件費	0
業務代行手数料	273
通信費	47
自動引落手数料	54
その他経費	54
管理費計	428
経常費用合計	3,601
III 当期正味財産増減額	△926
IV 前期繰越正味財産額	16,799
V 次期繰越正味財産額	15,873

- 令和 4 年度皆様からいただいた寄付金の総額は 2,675 千円で、前年度に比べ 70 千円増加しました。
- 寄付いただいた皆様は 156 名で前年度に比べ 7 名の増加となりました。口座引落終了期限を迎えた方は 3 名おられました。長年のご支援に感謝いたします。また、ご逝去された方には心よりお悔やみ申し上げます。
- 専用の「払込取扱票」を使った寄付は 66 件（前年度 73 件）でした。
- 一方、令和 4 年度の事業費合計額は、3,173 千円で受取寄付金の 119%となっております。寄付金をできるだけ効率的に支援金に回して、繰越金を減らしていくことが寄付いただいている皆様のご意向に即しているとの考えに基づくものです。
- 寄付先としては、仙台ラ・サール・ホーム出身の大学生・専門学校生 4 名に対する奨学金 48 万円、オーストリアに避難したウクライナの青少年に対する緊急支援 132 万円、ミャンマー国内の避難民に対する人道支援並びに教育支援 137 万円となっております。
- その結果、当期正味財産額は 93 万円減少して、次期繰越財産額は 1,587 万円となりました。

<編集後記>

- ・ 前回の SCOLA 第 12 号では巻頭言に編集ミスがあり大変ご迷惑をおかけしました。訂正版を SCOLA のホームページ（機関誌欄）に掲載しておりますのでご確認をお願いします。
- ・ 前回の SCOLA 第 12 号から、「La Salle Foundation」から贈られて来た小冊子に載っている子供たちの写真を掲載しています。「La Salle Foundation」の活動内容は lasallefoundation.org の「annual report2022」をご参照ください。
- ・ SCOLA では世田谷区にある SCOLA 事務局の移転を検討しています。都内で事務所として使用可能な場所をご存知の方は、事務局までご連絡くださいますようお願い致します。
- ・ また、掲載して欲しい記事などご意見がございましたら、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

（理事 紺野晃則） e-mail:scola_japan@yahoo.co.jp

